



佐藤 守正

療養病床は 必要である

町の療養病床は、町民の要求を満たすだけの病床数になっているのか。

質問

医療費を削減したいという国の施策で、療養病床の大幅削減が進められている。湯沢病院4階の療養病床50ベッドも別のものへの転換が迫られているが、高齢者の病気のほとんどが慢性期の病気であり、自宅で療養介護できない人も多数いるという現実の中で、一定数の療養病床は湯沢町の高齢者医療にとっては必須である。高齢者のベッドは確保できるのか。

町長答弁

療養病床は「介護療養型老人保険施設」へ転換する。転換後は50床全てが介護保険対応になり、医療保険では入院できなくなる。しか

し現在入院中の方は全て介護保険の認定を受けているので、変換によって転院をしなければならなくなる人はいない。

質問

介護の施設になれば医療の施設ではないから、医療の機能は後退する。チューブを胃まで差し込んで栄養を取っている人や、痰の吸飲を頻繁に行う人などが、今まで通りの治療を受けながら入院を続けられるのか。また常勤医師も看護師の数も減るけれど夜間の急変に対応できるのか。

町長答弁

そういうことはあるかもしれないが、地域住民の安心を確保するために、振興協会と充分話し合っけて対処していきたい。

就学援助制度をもっと使いやすいものにするべきである

質問

湯沢町でこの就学援助を受けている児童生徒は40人であり、これは全児童生徒の5・2%である。「広報ゆざわ」で就学援助制度が紹介されているが、それを見て自ら申請する人は少ないと思われる。新潟市は23・9%、長岡市は14・4%の世帯が受けており、湯沢でももっと受けていい世帯があるのではないか。

町長答弁

収入の目安を示してやれば申請しやすくなるなど私

も思っている。湯沢町でも生活保護基準の1・4倍を基準に考えている。全国一斉学力テストへの参加は再検討すべきである

質問

昨年4月に、小学校6年生と中学3年生を対象に行われた全国一斉学力テストは、現場の教師が自分で欲したものではない。現場が教育上必要があるとして取り入れたものでもない。問答無用でやらされて、その結果が個々の子どもたちの指導に役立つものであればまだしも、卒業直前になつてから結果が返され、子どもたちのその後の指導に役立つものにはならないテストだった。

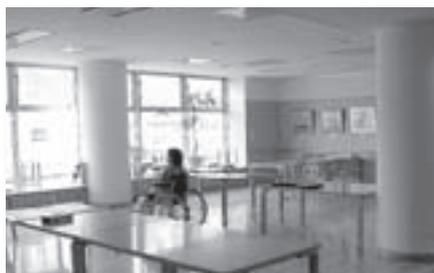
教師というものは誰でもが授業に工夫を凝らし、充実させていくことに意欲と情熱を持っているものだ。それを存分に発揮してもらうためには、外から強制させられている様々な雑務を可能な限り排除し、先生方が授業にだけ集中でき、子どもと対面する時間を可能な限り多くする、そういう

環境をつくっていくのが教育委員会の仕事である。全国一斉学力テストのような雑務は、教育委員会が楯となって排除していただきたい。

町長答弁

確かに先生方は多忙だ。国は県からの調査と報告が非常に多いことも問題だ。その点での簡素化を求めると同時に、町ではむやみに調査をしたりしない。課外活動やスポーツでも町の指導者が加わって、教師の負担を軽くする努力を行っている。

ただ全国一斉学力テスト、全国的な数字を出すためにも欠けるところがあると具合が悪いので、また来年度も引き続き実施する。



湯沢病院療養病床の老健施設への転換は何時か
湯沢病院療養病棟デイルーム食堂